

大 賞

ホソカワミクロン 株式会社

所在地 〒573-1132 大阪府枚方市招提田近 1-9
 代表者 代表取締役社長 宮田 清巳（みやた・きよみ） 氏
 資本金 14,496 百万円
 設立 1949 年 8 月
 事業内容 粉体処理機器の開発・製造・販売・メンテナンス、粉体処理の受託加工
 U R L <http://www.hosokawamicron.co.jp/>

【概 要】

同社は、大阪府枚方市に本社を置く粉体処理機器メーカー。多くのものづくりの工程で必要になる、粉を処理する「粉体技術」の世界トップ企業で、食品、医薬、化学、樹脂、金属、電子部品など様々な産業分野で同社の粉体技術が活用されている。数百種におよぶラインナップから最適な機器を選択し、また組み合わせでエンジニアリングすることにより、ニーズに応じた総合的な粉体処理システムを一品一様で提案することができるのが強み。近年は、ナノレベルの粉体の粒子構造を制御して医薬品や化粧品に活かす研究開発も行っている。

同社の技術の活用例



自動車
(二次電池、タイヤ他)



トナー
(写真は複合機)



食品



化粧品



医薬品

【受賞理由】

- ・ 98 年間(創業 1916 年)にわたって粉体技術一筋に培った豊富な経験とノウハウに基づいて開発される独自の製品や技術は、他社が追随できない。様々な産業における最先端のニーズに応じた高度で複雑な粉体処理を総合的に提供することができるシステム・エンジニアリング企業として、ものづくり産業を支える不可欠な存在となっている点
- ・ プリンタのトナーやエコカー、携帯電話の二次電池、液晶パネル、紙おむつ、化粧品、ペットボトル、化学繊維、調味料等、身の回りの様々な製品に同社の技術が活用されている点、また、新しい粉体技術の研究開発に努めることにより、様々な産業における新製品の開発に貢献している点
- ・ 欧州、米国、アジア等世界 13 カ国に展開、従業員の約 7 割が海外の現地法人に勤務し、海外売上比率も 7 割を超える等、日本だけでなく世界のものづくりに貢献している点

以上

特別賞

学校法人 近畿大学 及び 株式会社 アーマリン近大

所在地	〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1 (近畿大学)
	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 1-5 (アーマリン近大)
代表者	学長 塩崎 均 (しおざき・ひとし) 氏(近畿大学)
	代表取締役 達 浩康 (つじ・ひろやす) 氏(アーマリン近大)
設立	1949年2月設置認可(近畿大学) 2003年2月設立(アーマリン近大)
事業内容	クロマグロ、マダイ、シマアジ、ブリ、カンパチ、トラフグなどの養殖用種苗(稚魚)、および20種以上の成魚、加工品の販売。
URL	http://www.kindai.ac.jp/ (近畿大学)
	http://www.a-marine.co.jp/ (アーマリン近大)

【概要】

同大学は、32年もの歳月をかけ、2002年に不可能といわれていたクロマグロ完全養殖(人工孵化から育った親魚が産んだ卵を再び孵化させること)に世界で初めて成功した。また、同大学発ベンチャーである(株)アーマリン近大は、養殖魚専門料理店をグランフロント大阪および銀座コリドー通りにオープン。大学が研究の成果として自ら生産したものを、産官学が連携(店舗の運営でサントリーグループ、魚類以外の食材で和歌山県と連携)して専門料理店で消費者に直接提供するケースは、日本で初めて。



近大マグロ



「近大卒の魚と紀州の恵み 近畿大学水産研究所」

【受賞理由】

- 生態の解明が進んでおらず、また、他の魚に比べ稚魚の皮膚が弱く、些細な刺激でパニックに陥る等の理由により困難とされてきたクロマグロの完全養殖を、様々な魚の養殖で培った経験と技術で克服し、世界で初めて成功させた点
- (株)アーマリン近大がうめきたに出店した養殖魚専門料理店は、開店から1年近く経った現在でも行列が絶えない人気店となっており、養殖魚への理解を深め、日本の養殖業の発展にも貢献している点

以上

特別賞

株式会社 クロスエフェクト

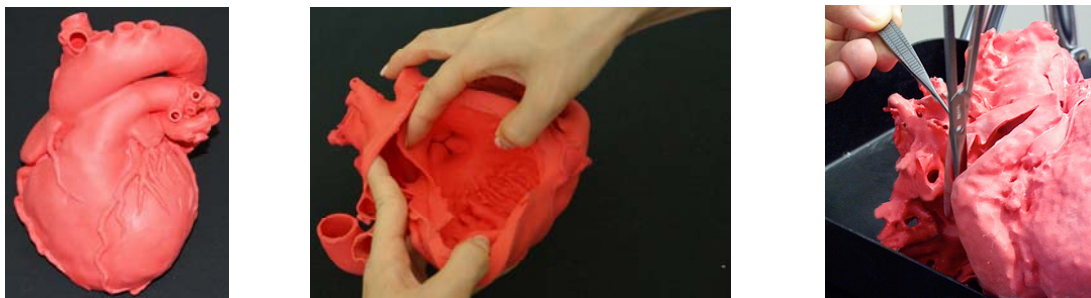
所在地 〒612-8443 京都府京都市伏見区竹田藁屋町 43
代表者 代表取締役社長 竹田 正俊（たけだ・まさとし） 氏
資本金 10 百万円
設立 2001 年 8 月
事業内容 プロダクトデザイン及び樹脂筐体設計、光造形による 3D 開発試作モデルの製作、真空注型品製作 その他新製品開発に係わるトータルサービス等
U R L <http://www.xeffect.com/>

【概要】

同社は、企業の商品開発におけるプロダクトデザイン及び試作品開発等を行っている。子供の先天性の心臓疾患手術のための心臓モデル製作を依頼されたことをきっかけに、コア技術の高速光造形技術(※1)と真空注型技術(※2)を活かし、国立循環器病研究センター等と共同で心臓の内側までを再現した世界初の心臓シミュレーターを製作した。素材も心臓の柔らかさに近づけるよう工夫している。

※1 紫外線を照射すると固まる特殊なプラスチックを 0.1 ミリずつ積み重ねて立体的な模型を作る
同社では 3D データ化などにおける独自の技術で短期間での製作が可能

※2 シリコンの型にウレタン系樹脂を使用し成型する。ポンプで空気を抜いて減圧し、真空に近い状態で樹脂を流し込み、常圧に戻す気圧差を利用することで、型の隅々まで樹脂を行き直らせることができる。同社では独自の技術で特に柔らかい樹脂も正確に成型できる



心臓シミュレーター(左から外観、中を開いた様子、研修で使用している様子)

【受賞理由】

- ・ CT データから腫瘍や内壁の穴などの異常まで再現する同社の心臓シミュレーターにより、正確な手術のリハーサルが可能となり、手術の成功率が上がることや手術時間の短縮が期待される点
- ・ 練習用の心臓シミュレーターの作成により、研修医や若手の医師等の、より効果的な技術向上に貢献し、医療の進歩に貢献している点

クマリフト 株式会社 代表取締役社長

くま がい きょう こ
熊 谷 京 子 氏

所在地 〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀 1-12-20
資本金 100 百万円
設立 1965 年 10 月
事業内容 エレベーター、小荷物専用昇降機(ダムウェーター)、搬送機、福祉機器など
昇降機の製造販売・据付・保守
U R L <http://www.kumalift.co.jp/>

【概 要】

同氏は、創業者である父の後を継ぎ、3代目社長に就任。主力の小荷物専用昇降機(飲食店や学校、病院などで、下の階から上の階へと料理を運ぶ際に使われる)だけでなく、家族の介護経験から、家庭用の階段昇降機やエレベーターにも力を入れている。

また同氏は「地域に3世代が交流できる場」を発案し、生産拠点を置く石川県小松市への恩返しの意味も込めて、2006年3月に「しあわせのいえ」をオープンした。



小荷物専用昇降機



家庭用エレベーター



「しあわせのいえ」での
交流イベントの様子

【受賞理由】

- ・同社が小荷物専用昇降機で創業以来国内トップシェアを継続している点、また、家庭用エレベーターをシースルーにし、かご内の異常に気づきやすくする等、ユーザー目線に立った研究開発を続けている点
- ・現在7年目を迎えている「しあわせのいえ」が、近隣の主婦らによるランチの提供や世代の異なる地域住民が擬似の大家族として集うことをめざした交流イベントの実施、様々な教室の運営により、交流拠点として根付き、地域社会に貢献している点

株式会社 フェリシモ

所在地 〒650-0035 兵庫県神戸市中央区浪花町 59
代表者 代表取締役社長 矢崎 和彦（やざき・かずひこ） 氏
資本金 1,868 百万円
設立 1965 年 5 月
事業内容 インターネットやカタログなどを活用した衣料品や雑貨などの
ダイレクトマーケティング事業
U R L <http://www.felissimo.co.jp/company/>

【概 要】

同社は、衣料品や雑貨などに強みを持つ通信販売会社。女性従業員が約 8 割を占め、仕事と家庭の両立支援制度が整備されている。育児休業前後や休業中のフォローが手厚く、希望者には毎日社内ニュースとイントラネットに掲載される「社長のつぶやき」がメールされる。また、従業員主体の「パパ・ママクラブ」という部活や、育児中でも参加しやすい朝の時間に行われる「朝ヨガの会」、休日に社外で行われる自主的なイベント等を通じて、親同士の交流も深められている。



同社のカタログ



社内の様子(打ち合わせ)

【受賞理由】

- ・ 1990 年代中頃から育児休業を 2 年間とし、休業中の社員へのフォローにも力を入れるなど、早くから法律を上回る両立支援制度が整備されている点
- ・ 同社では制度を利用することは普通という認識が浸透しており、例年、女性の育児休業取得率は 100%、復職率も 100%となるなど、女性が働き続けやすい環境づくりに取り組んでいる点

株式会社 ユーシン精機 代表取締役社長

こ たに ま ゆ み
小 谷 眞 由 美 氏

所在地 〒612-8492 京都府京都市伏見区久我本町 11-260
資本金 1,986 百万円
設立 1973 年 10 月
事業内容 プラスチック製品用取出口ロボットを中心に、射出成形工場の合理化、FA化を推進する機器・システムの開発、製造、販売
U R L <http://www.ype.co.jp/index.html>

【概要】

同氏は、創業者である前社長と結婚後、設立当初から社業に参画。2002年に前社長の後を継ぎ、代表取締役社長に就任。同社は、1978年に射出成形(※)で金型から製品を取り出す際に使用される取出口ロボットを開発、その後、エアシリンダ主流の80年代にはサーボモータを駆動源に採用、業界初のカラータッチパネル式コントローラ採用など、他社に先駆けた製品開発を進めてきた。1994年には世界最速光ディスク取出口ロボット「DRD」を発売。2010年には最適設計を駆使し世界最速の高速取出口ロボット「HSA」「TSXA」を開発した。

※プラスチック製品を製造する方法。全体のおよそ3分の2がこの方法で作られる。



取出口ロボット HSA シリーズ



小谷社長(左から4人目)

【受賞理由】

- ・常に経営の前面に立ち、上場を果たすなど、会社の着実な発展に貢献されてきた点
- ・同社が世界最速の光ディスク取出口ロボットの開発や、世界で初めて最適設計(※)を取出口ロボットに応用し、軽量化や省エネを達成するなど、革新的な製品開発を進め、プラスチック成形品の取出口ロボットで国内、世界共にトップシェアを獲得している点

※近年、最先端の技術を要求される航空機や自動車部品などを軽量かつ信頼性の高い構造にするために使われ始めている世界最新の設計手法。ロボットの機構やその動きを考慮して CAE (コンピュータ支援技術) により理論的な最適形状を求めていく。

以上